

一般質問とは、議員が町の行財政全般に対し、疑問点を質問し確かめることです。

会派の代表者が質問する「会派代表質問」と、個人の議員が質問する「個人質問」があり、質問時間は答弁を含め50分以内です。



政和クラブ
大岩 保 議員

平成28年度 予算編成方針は

将来を見据え 継続性のある予算

平成28年度予算について

問 将来を見越し長期計画を見据えた予算の内容は。

答 **町長** 持続可能な安定した行政運営を行うには、将来を見越した長期的な視線で予算編成をする必要があると考えている。

安心・安全なまちづくりを目指し、防犯カメラの設置や設置費補助金の創設、道路照明灯のリース・LED

D化や上ヶ第1ポンプ場および市原跨道橋(※)の長寿命化対策を計上している。

ハード面では、知多武豊駅東土地区画整理事業、町道武豊港線を始めとする道路新設改良事業や武豊町屋内温水プール建設事業など、平成27年度に引き続き主要事業に併せ、梨子ノ木第二土地区画整理事業の予算も将来を見越したものの一つである。

縮小・廃止したものは

問 既存事業との組み換え、縮小、廃止の内容は。

答 **総務部長** 主なものは、老人福祉センター廃止による代替として、町内の介護老人福祉施設における「高齢者交流事業」「デイサービス事業」の委託や、道路照明灯のLED化を進めることにより電気代や球切れなどの修繕費の削減を図っている。

また、資源回収事業では月1回の地域回収や、農地保全の自主的な活動に対する多面的機能支払交付金事業により、従来からの歳出を抑制していく。

問 今回の取り組みで経費の削減額はどのくらいか。

答 **総務部長** 主なもので、老人福祉センター関連では約1530万円、資源回収関連では約550万円、農地保全関連では約340万円、全体では約2700

万円の削減となっている。

職員からの提案は

問 施策の効率化につながる事業で職員から積極的に提案された施策は。

答 **総務部長** 事務の合理化や経済性、住民サービスの向上を目指した提案の中で、一例として女性活躍推進法などの成立を踏まえ職員研修に「女性職員向け幹部養成のための研修」、経費や道路照明灯の消費電力を抑え、光熱費の削減を図るLED化をリースで行う提案があり予算化した。

※跨道橋(ごとうきょう)とは、道路の上を越えるために設置される橋のことです。



■安全を見つめる防犯カメラ



きずな
鈴木 一也 議員

引きこもり対策に 新たな支援を

答 現在の事業の充実を考える

引きこもりの長期化や、社会に出た後に引きこもるなど、30代から40代の年齢層も増えている。引きこもりに対する防止も含め、早急な支援が必要である。

引きこもり対策の現状は

問 引きこもりの人数など、現状把握はしているか。

答 教育部長 実態については、すべての把握はできていない。

相談件数は年々増加しており、引きこもりが増加傾向にあると推測する。

実態調査は大切であると思つが、個人情報など課題がある。

問 現在行っている支援は。

答 教育部長 相談事業「こちさんサポート相談」として、毎月1回第2水曜日に思いやりセンターで、相談窓口を開催している。

居場所づくり事業は、支援団体の協力をいただき、

毎月1回第3土曜日に砂川会館で、参加者と支援者が軽食を作ったり、遊んだりして、一緒に考え応援する活動をしている。

問 今後も増加傾向にあるが、新たな支援は考えているか。

答 教育部長 現在行っている相談事業や居場所づくり事業を継続し、ひとりでも多くの方に活用していただき、解決のきっかけになればと思う。

そのために、周知の方法や相談窓口の増設、関係機関との連携が必要と考える。また、新たな取り組みとして、学校・保健所・福祉団体・病院・就労関係者など、官民の関係機関の意見を伺つ「協議会」の設置を検討している。



■居場所づくりの砂川会館



■相談窓口のある思いやりセンター

義務教育卒業後の支援を

問 義務教育卒業後の支援として、スクールサポートのような方による家庭訪問などの支援はできないか。

答 教育部長 家族の理解が得られなかったり、個人情報などの問題があり難しいと考える。

問 いじめ・不登校対策に比べ、引きこもり対策の予算は50万円弱と10分の1だが、予算を増額して支援を充実することはできないか。

答 町長 予算を付けなければならないというものではないが、必要であれば対応していく。

※他に「平成28年度予算について」の質問。



武豊クラブ
岩瀬 計介 議員

町長の平成28年度の 基本方針は

問

答 町民の皆さんの幸せに繋げる改革

町長の思いは

問 初山町長が行おうとする「発展」「展開」する具体的な施策について、また、財政的には、ここ7年くらいが一番きつい。「足るを知る」心をもって、創意工夫をするとあるが町長の思いは。

答 町長 今年の年頭の挨拶の中で、「展(てん)」「申」の文字をキーワードとして掲げた。

今年の干支は、「申」(さる)であり、「申」の文字は、稲妻が伸びる姿を描いたもので、物事が進歩発展し伸びていくという意味がある。

町の各種施策が「発展」「展開」という意味を込めて、「展(てん)」「申」の文字を用いて、新しい年に向けた私の思いを表現した。具体的な施策について、この4月にオープン予定の地域交流施設、知多武豊駅東土地区画整理事業、野菜茶業研究所跡地利用、「屋

内温水プール構想」など、各種大型公共事業の推進や、中央公民館、および総合体育館などの既存施設についての管理運営方法の検討など、一層、発展的に展開していきたいと考えている。

昨年9月議会の一般質問の中で、議員より「足るを知る」という言葉をいただいた。「足るを知る者は富む」の「足るを知る」という言葉を、私は「仕方なく満足する」という消極的なものとして解釈していない。「これで良い」ではなく、「これが良い」という信念で、計画に掲げた各種の施策を、今後も押し進めていく。

「町民の皆さんの幸せに繋げる」という、大きなミッションを果たすべく、「どうすべきか」「何ができるか」知恵を絞り、工夫を重ねて、さらなる改革を目指していく。

野菜茶業研究所 跡地利用の素案は

問 野菜茶業研究所の北側跡地利用の調査研究は。

答 企画部長 住民の皆さまが集える都市公園や、消防署用地の候補地のひとつと考えている。

平成28年度には整備方針の素案を策定する。平成29年度には都市計画図書を作成し、都市計画決定していく。

協働のまちづくりとは

問 協働のまちづくりを提唱されている町長にとって、一番力を入れて取り組もうとしていることは。

答 町長 協働のまちづくりを進めるために、最も重要なことは人づくりであり、協働に対する理解、意識の高揚を図るのが大切である。



■跡地利用を検討している野菜茶業研究所



公明党議員団
甲斐 百合子 議員

子育て世代 包括支援センターを

支援体制のあり方と合わせ検討

ワンストップの相談支援を

問 総合的な相談支援拠点である、日本版ネウボラ・子育て世代包括支援センターの整備についての考えは。

答 町長 ネウボラは、福祉先進国フィンランドの子育て支援制度で、妊娠期から子育てまでの一貫した総合的なサービスが、一つの場所です。私も昨年、全国町村会の視察でフィンランドを訪問し、深く感銘しました。

本町では、ワンストップ拠点の支援体制ではないが、どこでも必要な相談ができる体制になっている。

武豊町版ネウボラ・子育て世代包括支援センターの整備については、「センター」としての必要な機能、ワンストップ拠点のメリットや地域特性を、見極めていくことが重要であると考える。

問 土日や夜間の相談窓口はあるのか。

答 健康福祉部長 土日や夜間の相談窓口はないが、平日に電話でご一報いただければ、できる限り対応していきます。

問 支援が必要な方に対して、支援プランを立てているか。

答 健康課長 支援プランとまではいかないが、母子手帳交付時の面談やアンケートを訪問や相談支援につなげている。

武豊ネウボラの整備計画は

問 厚生労働省は、平成32年度末までに全国展開を目指している。本町での子育て世代包括支援センターの整備計画はどうか。

答 健康福祉部長 子育て世代包括支援センターについては、

- ・妊娠から子育て期に至るまでの総合的な相談支援
- ・ワンストップ窓口における個別ニーズを把握したうえでの利用者支援
- ・保健師、ソーシャルワーカーなどの専門職の配置
- ・地域のさまざまな関係機関とのネットワークの構築

などの基本的要件と専門的な機能が必要になる。国の動向や情報を注視しつつ、現行の整備計画や支援体制のあり方と合わせ、検討していく。

※他に「平成28年度予算について」「町営住宅の入居申し込みについて」の質問。



■健診時の個別面談の様子